

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 20
発行日 平成23年5月12日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030

飼育展示数 哺乳類:23種180点
鳥類:28種149点
爬虫類:11種 45点
(平成23年4月末日現在)



▲ インドクジャクのオス

恋の季節です

春、暖かくなり日照時間が長くなってくると、鳥たちの恋の季節が始まります。加瀬山ではウグイスなどをはじめ様々な野鳥のさえずりが聞こえるようになりました。

動物園の鳥たちも同様です。メスの体では卵を産む準備が整い、オスは…メスをめぐってケンカを始めるものもいます。ミノヒキチャボやインドクジャクなど、この時期はよくケンカして擦り傷を作ってしまうので気が抜けません。特にインドクジャクはこの時期、ひどいケンカをしてしまうので一時的にオスは住まいを分けています。

しかし、ケンカばかりしていてもメスは振り向いてくれません。オスはきれいな羽を広げて見せたり、餌をプレゼントしたりして、メスの気を惹きます。このあたりは、人間と一緒にでしょうか…？

いままでありがとう

～フチアが天国へ旅立ちました～

4月15日、夢見ヶ崎動物公園のフチア、最後の一头が老衰で亡くなりました。国内で飼育されていた最後の一头でもありました。11歳の誕生日まであとひと月でした。

人だかりができるような見た目や動きの派手さはありませんでしたが、彼らを作る独特ののんびりした空気にはマニアックな人気がありました。

暖かいキューバに住むフチアにとって寒い冬はつらい季節でしたが、暖房などで乗り切りました。春になり暖かくなってきても、もうおじいちゃんだし油断できないな…と思っていた矢先のことでした。

今までかわいがってくれた皆様、ありがとうございました。そして、皆様を楽しませてくれたフチアへ、どうもありがとう。



のんびりした表情で、訪れる人を和ませてくれました。

★ピックアップ動物★

コモンマーモセット

分類:哺乳綱 霊長目 マーモセット科



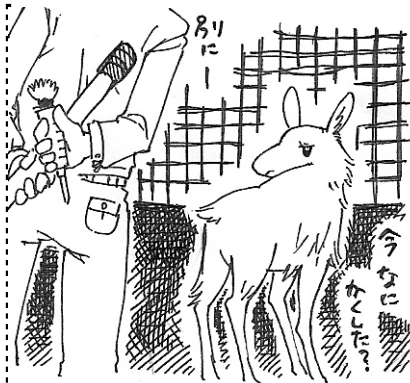
パパ似かな、ママ似かな…?

ブラジルの熱帯雨林に生息し、昆虫や果物などを食べる小型のサルです。寒さに弱いので、気温の低い日や雨の日は屋内にいます。

そして、よく観察しているお客さんの中には気づいている人もいたようですが、実は冬の間に赤ちゃんが生まれていました。小さな体、小さな手で父親と母親の背中を行ったり来たり、しっかりとしがみついています。最近ではひとりで部屋の中を動き回ることも多くなってきました。

この小さなサルは、その体のどこに…と思うほど力が強いので、父親や母親がびよんびよん跳びまわっても、振り落とされることはまずありません。

これからの暖かい季節、天気良ければ親子3匹、仲良く外で日向ぼっこする姿が見られると思います。



獣医の日記

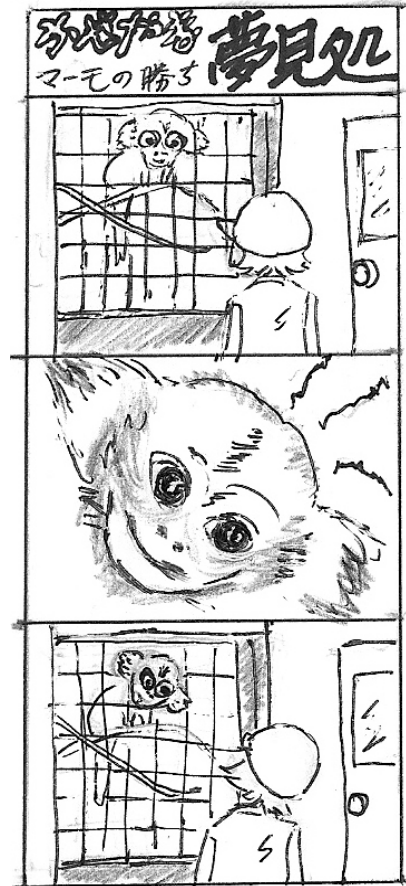
今回から、動物の治療にかかわるエピソードを紹介していきたいと思います。

人間は具合が悪くなれば自分で病院に行き(連れていってもらい)、おとなしくお医者さんにみて

もらいますが、動物はそのようにいきません…。

最近ヘラジカが一頭、外に出ていなかったのにお気づきの方もいると思いますが、実は足に膿がたまり、腫れてしまって治療中です。と書くと一言ですんでしまうのですが、ヘラジカに「足が痛そうだね、治療してあげるからちょっと足を見せて」と言っても、言うことを聞いてくれるわけではありません。ではどうしたかという…傷をみるために吹き矢で軽い麻酔をかけました。言葉が通じればこんな大掛かりなことしなくてもよいのにねえ、と思いますが仕方ありません。

当ヘラジカは傷もよくなりつつあるので、ちょうどこのゆめみにゆーすが出るころにはまた気持ち良い外に出られるようになっていくかもしれません。



★動物たちの主な移動(平成23年2月1日～平成23年4月30日)★

ニホンイシガメ(性別不明7繁殖、♂1死亡)、コシャモ(♂1死亡)、クモザル(♂1死亡)、フチア(♂1死亡)、フサオマキザル(♂2♀1BL)、マーコール(♂1♀1BL)、ミーアキャット(♂3搬出)